

オホーツク生態系保全

日露協力シンポジウム

オホーツク海をはじめとする日本とロシアの隣接地域では、近年、温暖化の影響により流氷が急激に減少するなどの変化が生じています。この豊かな生態系を維持し、持続可能な利用を確保するためには、ロシアとの協力が急務となっており、昨年7月の北海道洞爺湖サミットの際の日露首脳会談において、日露間で具体的な協力を進めていくことが確認されました。

このシンポジウムは、日露双方の研究者の参加を得て、オホーツク海における温暖化による流氷の減少や魚類・鳥類・海獣類等の生態系の現状について議論し、今後の協力の進展につなげることを目的として開催されるものです。

日時：3月8日(日) 9:00～17:30

場所：札幌プリンスホテル 国際館パミール(6F 美瑛)

(地下鉄東西線西11丁目駅下車2番出口より徒歩2分)

入場無料(事前申込不要) 日露同時通訳付き

このシンポジウムでは、オホーツク海の流氷の減少、漁業資源を取り巻く状況や海獣類の回遊コースの変化等について、日露双方の研究者がわかりやすく説明いたします。専門家の方々のみならず、ご関心のある皆様のご参加をお待ちしています。

プログラム(予定)

9:00 / 主催者挨拶等

9:30 / ① 温暖化で変わるオホーツク海:海洋物理化学観測の成果と今後の予測

北大低温科学研究所: 大島 慶一郎 教授 ほか
極東海洋気象研究所: 副所長 Dr. カラセフ(Karasev) E. ほか

11:00 / ② オホーツク海の生態系変動と魚類(スケトウダラ・サケ類)の動態

北大水産科学研究所: 桜井 泰憲 教授・ 梶山 雅秀 教授 ほか
サハリン漁業海洋研究所: Dr. ヴェリカノフ(Velikanov) A.
Dr. キム・セン・トク(Kim Sen Tok)
Dr. ラドチェンコ(Radochenko) V.

13:00 / ③ 極東ロシアと北海道を往来するトド・アザラシ類の変動

東京農業大学生物産業学部: 小林 万里 講師
北海道地区水産研究所: 服部 薫 研究員
太平洋地理学研究所(カムチャッカ): Dr. ブルカノフ(Burkanov) V.
(ウラジオストク): Dr. トゥルーヒン(Trukhin) A.

14:20 / ④ 鳥類: 特にオオワシ・オジロワシ調査の結果と今後の動態予測

知床博物館: 中川 元 館長
モスクワ国立大学: Dr. マステロフ(Mastorov) V.

15:00 / ⑤ ヒグマ: 海と陸との生態系のつながり、極東ロシアと北海道のヒグマ

北海道環境科学研究センター: 間野 勉 主任研究員
太平洋地理学研究所(ウラジオストク): Dr. セリョートキン(Seryodkin) I.

15:50～17:30 / パネルディスカッション



主催:外務省・環境省 後援:北海道
www.mofa.go.jp